



實驗上の育兒法

醫學博士 瀨川昌耆口述

未久利の弊害

▲砂交りの小便 未久利と新乳のお咄しに移る前に尙初生兒の小便の事を述べて置かう、普通の小便と思ふて居ると夫れが往々異つて居るので世の經驗薄きものは是れが爲め非常に驚き随分狼狽して醫師を招く事などがある、で其の異つた小便とは何ういふのであるかと云ふに、生兒は生れて十

二時間乃至二十四時間位小便の出ない事がある、爾うすると之れは小便詰りではあるまいかと大層心配になるものだ、けれども是れは驚く程の事ではない、何うかすると斯ういふ場合があるので一晝夜位經つと快よく放尿し始めます、夫れからも一つ注意して置くのは生れて後出る尿には細未な砂のやうな帶黄赤色として即ち赤く黄色味のあるのが襟襟へ附着て居る事かあるのです、是れには随分一驚を喫する事が多い、殊に斯ういふ尿の出る時には生兒が痛がつて泣くものです、夫れ故尙々喫驚するけれど是れとても驚く程の事は無い、斯ういふ結果を來すと云ふも生兒の腎臓内に或る變化があつて一種の尿酸鹽類を放尿するので全く生理的作用に依るもの故、之れが出盡して仕舞へば夫れで障りは無い、併し一度や二度では止まらな

い、出たかと思ふと出なくなつたり、出ないと思ふと出たりして二三週間位は斯ういふ状態を呈する事がある、尤も餘り痛みが烈しいやうであつたり又斯ういふ尿が頻々長い間出るやうなら醫師の診斷を受けるが宜いが、左もなくば心配せずに出盡して仕舞う時を待つて少しも差支へない

▲末久利の害 次に末久利と新乳の事を述べやう、一体此の末久利と云ふのは支那から傳來した生兒の胎毒下しであつたもの、此の末久利は甘草と海草(鵝鴛菜)を調劑したものの、之れを煎じて生兒に飲ませるので、今日の醫學上から見れば、實に此の末久利は野蠻時代の遺物とより外思へません、去れども舊産婆などは往々之れを携帯し、産婦の家に老人でもあつて「生兒に末久利を飲ませないと胎毒が出來ますよ」と末久利を飲ませた

い氣色でもあると産婆はソツと煽動こんで「末久利を飲ませた生兒は御丈夫です」杯と飛んでもない事を勧め込んで賣付ける算段をする是れは甚しき下劑ではないが、稍もすると此の中へ眞の下劑を用ゐて通痢させるが斯ういふ末久利では生兒の健康を害います

▲新乳の通痢作用 末久利は傳來の弊害で斯んな薬を用ゐずとも産後の乳汁は初乳と云つて後に至つて出る乳汁とは成分が違ひ通痢の効を有して居るものです、即ち末久利を態々飲ませずとも自然に備つた母親の乳汁を飲ませれば却つて其の方が利目が多い、然るに初乳をば新乳だから毒だと搾つて捨てさせるのは自然の保育に背く甚しさものです、故に生兒には斯る有害無効の末久利を飲ませずに成丈け早く母親の乳を飲ませる事が肝要

である

健康なる生兒の便

▲乳汁の機能 經驗の無き初産婦が生兒に乳汁を飲ませる時、乳首が小さかつたり、又縮回んで居たりする場合、夫から又次産婦の乳首が大き過ぎ生兒が吸付けぬ時などは、頻りに泣いて幾度乳首を付けて遣つても満足に吸付けない、爾うすると生兒は益々火の付くやうに泣きたてる事のあるものだ、生れて間もなき生兒に泣きたてられる程心の周章る事はないが、氣を鎮めて三四日位は色々と工夫して乳汁を吸へるやうに仕て遣るが宜い、スルと母親の方でも段々熟練するし、生兒の方でも其内には吸付け工夫をするものだから、ソコで首尾克く飲ませる事の出来るやうになるものです凡て乳汁を吸はせれば吸はせる丈機能が盛に

なるから最初に乳汁の細いと思ふ人は充分に吸はせる工夫を講じなければならぬ

▲何故眼を覺すか 生兒は生れて一晝夜位經つて母乳を與へる、此時故障もなく生兒が乳汁を吸へれば、ソコで又快よくスヤ／＼眠るものです、先初生兒は眠むるのと、飲むのと、夫れから便をするのと此の三ツより外に役は無いのもの、故に眠つて居る生兒が眼を覺すのは腹が減て飢を覺えるか、左も無くば大小便の爲めに強褌を汚して不快を感ずるか、又冬季ならば身体が冷えて寒いのか此の三ツの爲めである、腹も飽滿して居るし、寢せてある床も、強褌も規則正しくなつて居るにも係らず眠りに就かぬのは必ず身体に異状があることと心得、取敢ず醫師の診斷を仰ぐが宜い

▲注意すべき大便 母乳を飲んで居ると其内には

初生児の普通の便となるのです、依つて健康なる生児の便の事をお咄し致して置かう、爾うして毎時其の便に深く注意をなし、平生と變つたか否かの場合は機敏に判断を下し手當を仕なければならぬソコで健康なる便は孰れの生児でも一定して居て、殆ど無臭で且つ黄金色で、其の性状は玉子とじを水中に放ちたる如く一寸見ると食べて見たい程に思ひ、不快なる感は更に起らぬものである、處で若し其の兒に胃腸の疾患があつたり、乳汁の消化が正しくなければ何うであらうかと云ふに、便は直ちに變化を來して綠色を呈し、今迄一様に柔か度フワ／＼して居たのが急にツブ／＼が出来、菜の葉を揉碎いて水に浮べたる如き状態になる、万一生児が斯んな便に變じたら是れぞ消化機能の障害されし徴候と心得なければならぬ

▲大小便の回数 夫れから大便の度数は生れた當時一晝夜に一二回から六七回位あるもの、小便の量数は二十分か三十分一回ある事もあれば、又一晝夜に十回から二十回迄位、乳汁を澤山飲めば飲む丈従つて量數も一層多くなるのです

母乳の飲ませ方

母乳の飲ませ方は初生児に取つて最も大切な、最も六か敷ことである、營養の正しく進むと進まぬも、ムク／＼肥つて健全に發育するも又病身な兒にするも母乳の飲ませ方が大なる關係を持って居るのです

▲授乳の分量 ソコで親達から斯ういふ御質問が度々あります「母乳を飲ませるのは一回何の位の分量を與へたのが適當であらうか」と成程此分量と云ふ事は尤も大切なことで、多過ても害になる

し、ト云つて少くとも害になる孰れにしても不適當ならば疾患の基となるのです然らば初生兒には何の位の分量を與へて宜きかと云ふに乳房の中にある乳汁が何の位吸はれるのか牛乳の如く一定の分量を計ることは出来ないが理屈から云へば生兒の体重を量て置いて母乳を與へ其の乳が胃に飽滿した後又其の兒の体重を量れば稍精密に母乳の分量を計り得れど是れは只一遍の理論に止まり一々實行の出来るものではない

▲授乳の時間 夫れでは此の分量を定めるには飲ませる時間を以つて計つたら宜からうかと云ふに是れとても健康なる小兒と虚弱の小兒とによつて各飲む時間が違ふから一定したふ咄しは出来ない、強壯な無病息才な生兒を御覽なさい母乳の飲み方が荒いではありませんか、夫れに引換へ虚弱

な病身な生兒であつたら緩くり飲んで其の緩慢なことは健康な生兒と全然比較にはなりません、次には母親の乳汁が充分に出るか又不充分であるか、是れも飲ませる時間と關係ある故、一定したふ咄しは出来ないですが、私の實驗上に據ると母親の乳汁も充分に出るし、生兒も強壯であつたら五六分間で一回の量は飲み終るのです、左も無い場合には十分間も二十分間も居るか、先づ種々な事情や多くの場合を平均して一回の乳量を時間で定たら十分間から十二三分間と見做して宜からう

▲時間では不便 去れど此方法とても授乳中一々時計を見なければならず万一傍に時計を置いていもなければ飲過させるか、乳不足にさせなければならぬ、之れでは實に面倒で不便な方法である

から、夫れよりも一層簡便な方法で適當なる分量を定めなければなるまい

▲分量を過す 總て強壯な生兒は胃袋が飽滿すれば一旦乳汁を飲むことを止めて仕舞ひます、乳汁を飲み止んだら直ぐに乳房をお放しなさい、爾うして再び乳汁を吸はせないやうになさい、處が虚弱な生兒では逆も斯ういふ例は標準に出來ず、飲んでは乳房を放し、間を置いては又乳房に縋る、故に分量も瞭らず、終には母親の情として分量が少なくなはないかと願念ひツイ〜餘計に飲ませて仕舞うやうな事が出來する、授乳の分量に就いての研究は尙ほ次回に説明致さう

▲吐く兒は肥る 初生兒が乳汁を飲過ぎた場合に身体を動搖させると直に吐いて仕舞ふ、處が俗間では斯いふ事を云『乳汁を吐く兒は肥る』と、一

寸考へると乳汁を吐いて何うして生兒が肥るだらうか不思議に思へるが、此の意味は即ち母の乳汁が不足でないといふ證據で、乳汁が不足なら吐きたいにも吐く丈の量がないからです、併し斯く乳汁を飲過ぎて吐けばこそ胃袋の働きを調節するが若し吐かなかつたら胃弱症となり腸までも弱らして仕舞うやうになる

▲授乳分量の標準 乳汁を飲み過ぎて生兒が消化不良を起すと、何により先きへ大便の變徵を起すのです、能く注意して御覽なさい、斯ういふ際には屹度大便が綠色になるとか、又平生よりは便の回数が多くなります、ソコで乳汁の分量は時間で量るとしても一般の生兒に適用する標準とはならぬから母親は斯ういふことを深く留意するのが肝腎です、即ち乳汁を飲ませて吐く事もなく、又

た大便も通常な正しい便で、身体の方目方も次第に増えて肥満するやうなら之れが其の生児に丁度適當した乳汁の飲ませ方であると御記憶なさい、此の標準を定めるのは熟練を要さなければなるまいと云ふお考への方もあらうが若し少しでも乳汁を吐いたり、便が平生と變つたなら直に乳汁の分量を控目にして御覧なさい、其の効驗は立どころに現はれ、乳汁も吐かず、便も健康の當時に復すものです

▲授乳の回数 生児一回の乳量は之れでお解りになつたでしやう、然らば一晝夜の授乳の回数は何の位が適當して居らうかと云ふに先づ生児が生れて一ヶ月間位は二時間乃至三時間に一回與へる事になさい、詰り一晝夜に十回内外と思つて居たら大なる誤りは無い、夫から生後一ヶ月以後は毎三

時間に一回授乳し、夜は成可く飲ませぬやうにするのが生児の健康上利益のある事です、爾して一晝夜を通じて六回から七回授乳する事と心得て宜からうケレど茲に特に御注意迄申して置く事がある、夫は素人の方は授乳の時間を餘り確く守り過ぎて生児がスヤ／＼眠つて居ても授乳の時間になつたからと無理に起して乳汁を飲ませる方があります、之れは飛んでもない心得違ひで假令授乳の時間になつても快よく眠つて居たら起して乳汁を飲ませるには及ばない、腹が減つて飢を覺えれば眼を覺して乳汁をせがむから其の時與へたので決して差支はないのです

▲老嫗の失策多し 授乳の回数は斯く定めても之れはナク／＼實行の仕悪いものでツイ知らず識らずの間に餘計の回数を飲ませるやうになる、殊に

老母のある家庭では多く失策の有勝ちなれど其の
兒の健全を祈る母親は必ず授乳の規則を遵守する
事をお勧めするのであります（ついで）

貞一の日記（承前）（明治廿六年五月廿日）
（拔萃）（月廿日生男兒）

そ　の　母

明治三十八年六月廿一日 今日泣かずに、母様

いつていらつしやいと、玄關まで送り出づ、

六月廿二日 シンブン、キク、バラハナ、などい

ひならふ、ピン〜ドウ〜を節も詞も明らか

に唱ふ、

今日皆々知らぬ間に、鼠入らずの戸を明けて砂

糖をつかみ出してはなめ居たりき、

六月廿三日 下ふみ子さん、ピアノを練習に來た

り、ウエディングマーチを弾きしに、此方にて

耳を澄まして聴き居り、やがて父様〜といふ、

これは余程前に、父様が毎日弾き居りしを覺へ

居りしものならんか、又安田さんが「めぐみの

光」の讚美歌を弾けば、カーチャン、エン〜、

コン〜、テイチャン、ヤン〜、といふこれ

は此の前の日曜に、教會に行き、母がオルガン

にて、此の歌を弾きしに、貞一がいやがりて、

ヤン〜泣きしを思ひ出したるなり、

六月廿四日 朝外へ出て遊び居りしに、ジャイ

〜といつて、胸の邊を引掻く、安田さん直ち

に抱きて家に歸れば下痢す。元氣は左程わしか

らぬも顔色悪し、電話にて小原先生に報知す、

代診佐々木先生來診せらる、飯を粥に代へて少

くし、牛乳の方は減ぜずとも宜しと仰せらる。

此頃は自分の方より好みの歌を注文す、ニーボ